

今にみる、マンスション事情概論

マンスションを取り巻く様々な出来事、世相を反映するようなマンスションに関する話題や時事問題をテーマに、ベテラン・ジャーナリストが独自の視点で語ります。

地域が求めていることは、「何でもやる！」〜地域住民との関わりを大切に〜

このところ、不動産会社と地域との協力・連携関係が進み、活発な地域貢献・共生活動が増えてきている。なかでも、「地域が求めていることは、何でもやる」と徹底的な地域活動で、地域住民と一体となつている会社がある。千葉県は九十九里浜に接する大網白里町にある不動産会社だ。どれほど徹底しているのか、訪問してみた。「一隅を照らす」を経営理念に、



地元アーティストの演奏を聴き入る地域住民の皆さん（不動産会社の本社内で）

「お客様第一を貫く」というしっかりした基本方針のもと、「現在、111もの地域貢献活動に携わっています」と、活動内容、目標、担当、地域とに区分けされた111の一覧表を見せながら話す不動産会社社長。社員総勢35人が、それぞれ2つ3つの任務を持って、毎朝の周辺地域の清掃活動、駅前交通整理に始まり、草刈り、花植え、子育て・児童保育、子供英会話、各種コン

「戦争体験を子供に伝える会」とかのユニークな活動もある。同社長は、「社内はもちろん、地域の環境整備・地域貢献の徹底した活動と、当社の不動産事業とが混然一体となつて支え合っている」と、効果も大きいという。東京・板橋のマンスション会社と、その系列の管理会社とが「緑のカーテン」を取り入れた環境共生型マンスションづくりを軸に、地域共

サートの開催など、ありとあらゆる思いつくイベントが実施されている。なかには、地域の主婦が日替わりシェフとなつて、毎日30食限定のランチを提供するレストラン運営や、「農業を考える会」、「まちづくりリーダー塾」、「病院を応援・掃除する会」、「はっぴーエングェルの会」、「戦争体験を子供に伝える会」とかのユニークな活動もある。同社長は、「社内はもちろん、地域の環境整備・地域貢献の徹底した活動と、当社の不動産事業とが混然一体となつて支え合っている」と、効果も大きいという。東京・板橋のマンスション会社と、その系列の管理会社とが「緑のカーテン」を取り入れた環境共生型マンスションづくりを軸に、地域共



大越 武
Okoshi Takeshi
不動産ジャーナリスト

昭和43年上智大学新聞学科卒、同年日刊工業新聞編集局入社。62年南東京支局長、平成3年編集局第2産業部長、4年論説委員を兼務。8年大京入社、広報部長、12年取締役広報部長兼宣伝部長。18年(株)大越事務所を設立し、フリーライターに。現在、日本不動産ジャーナリスト会議(幹事)、上智大学不動産ソフィア会(会長)に所属。著書に「マンスション力」(共著)など多数。